

ロには、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名

グループホーム
いちごハウス茶屋町

日付

平成16年10月27日

評価機関名

有限会社
アウルメディカルサービス

■評価調査員

薬剤師・介護支援専門員

痴呆介護経験8年、障害者、老人介護支援

自主評価結果を見る

(まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

調評

■全体を通して(特に良いと思われる点など)
ホームの周りは静かな住宅地である。水田が広がり、散歩するには最適な環境にある。地域の住民の方も、散歩をしていると声をかけてくれる。
ドライブや外出にも積極的で、午後からは毎日のように近くのお店まで買い物に出掛けている。

玄関には大きな水槽が置かれ、ブラックバス、ザリガニなどが飼われているほか、ホーム内では犬・猫も飼育されている。
職員の描いた、大きな絵画も飾られ、生き物や絵を通じて安らぎの効果を発揮している。

リハビリには力を入れている。各ユニットには、通常の浴槽のお風呂、スロープ付きの浴槽を持つ車イス用のお風呂が設置されていてリハビリの一翼を担っている。
1階には、機能訓練のスペースが設けられている。また、針灸・マッサージの先生も週5回来訪してくれており、入居者は無料で受ける事が出来る。

必要の無い薬は出来るだけ使いたくないという事業主の考えから、薬についての勉強会は積極的に行われ、主治医と話し合いながら減量に努めている。

■改善の余地があると思われる点
入居者個人個人の嗜好、動物の好き嫌いにも配慮し、喫煙場所の限定や、セラピー犬の行動スペースを制限するなど、より清潔な環境作りを意識されたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目 ■グループホームとしてめざしているものは何か 今の身体機能を維持し、出来ればよくならしてもらう事を目指している。そのために、スロープ付き浴槽、機能訓練スペースなどを設けてリハビリに取り組み、針灸・マッサージも導入している。			

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目 ■入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 見守りしながら、その人が自立できるように会話に取り組んでいる。ホームの玄関には自動販売機を設置し、ジュースなどを入居者が自由に買うことが出来る。 系列のグループホームでの花や陶芸教室への参加や、毎日の散歩、買い物。動物によるセラピーを通じ、精神面でのケアにも努めている。			

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目 ■一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か リハビリに注力し、身体機能の維持向上に努めている。健康面から自信を取り戻してもらって、安心して暮らせるホームを目指している。職員は入居者を人性の先輩として、尊敬の念を持って接し、会話の中から趣味などを聞き、編み物などをしてもらっている。			

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目 ■サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 入居者の自立にむけて、自由な暮らしの送れる場としてグループホームを捉えている。 系列のグループホームの管理者と毎月意見交換を行い、レベルアップに努めている。また、薬についての勉強会を行い、医師と話し合いながら、必要最低限の薬になるよう努めている。			